



学校だより

11月号

横浜市立六つ川台小学校

令和3年10月29日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadae/>

E-mail: ky-e-mutsukawadae@city.yokohama.jp

これからの運動会

副校長 小山 雅史

昨年度に引き続き、今年度も運動会は午前実施といたしました。コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言も解除され、感染症拡大の波もだいぶ収まりつつありますが、感染症対策を全くなくすことは難しいと考えました。そんな中の運動会でした。

6年生のソーラン節の練習では、ダンスリーダーが中心となり、隊形移動や見せ場など表現の工夫を重ねていました。本番前、ペア学年で演技を見合いました。6年生の演技に1年生は「すごい！」と感嘆の眼差しを向けていました。6年生から1年生の頑張っている姿をほめてもらったのも嬉しそうでした。練習の時間が限られていた中でも、互いによさを認め合う姿が見られ、大変嬉しく思いました。

演技は学年毎のらしさがありました。ノリノリで元気いっぱい1年生、バツと振った旗の音が心地よい2年生、短縄の技を何度も繰り返していく3年生、4年生は巧みなボールさばきで息もぴったり、キレのある動きを目指した5年生、そして迫力の6年生、小学校生活の集大成となりました。一人ひとりの練習の積み重ねや思いが一つに結集されていました。

運動会後の振り返りでは、「みんなで練習したのが心に残った。」という子どもや「全力で走り切っただけ達成感があった。」という子どもがいました。夏休み明けから、学年でまとまって何かに取り組むということがあまりできませんでした。全力で走ることも限られた中でしかできませんでした。みんなで一緒にできるということや、思い切り体を動かせるということが印象に残ったのでしょうか。これまで当たり前と思っていたことは当たり前ではなく、とても価値のあるもの、とても貴重なものだったということ改めて感じさせられます。

また、運動会にはたくさんの人の支えがありました。PTA、学校ボランティアの方には、受付や消毒、会場の片付けをしていただき、教育支援員の方には、校舎の中で子どもたちを見守っていただきました。そして何より保護者の皆様には、9月の分散登校からこれまで、コロナ禍の生活で様々な制限がありながらも、各ご家庭で子どもたちの成長を支えていただいたと思います。運動会のアンケートでは、温かいお言葉や改善に向けてのご意見をいただきました。よりよい教育活動への一助となり、大変ありがとうございました。

運動会は、体育や特別活動などで培ってきた力を発揮する場です。その在り方については、時代や社会の状況によって変化していくものかもしれません。一方で、変わらないこともあると思います。力を出し切って運動すること、人と人が関わり合うこと、等々。コロナ禍の運動会から、これからの運動会で変わらず大切なことは何かを考えさせられました。